

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に全スタッフと一緒に運営理念をつくりあげパンフレットや玄関に掲示し理念の達成に努めています。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の会議等で、理念に向けている。玄関、また各ユニットに掲示し周知するようにしている。		全ての社員が、述べられるよう会議等の場で、述べる機会を設けて行く。全体会議の最初に、機会を設ける。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	パンフレットにも理念を盛り込み、入居時の家族への説明、地域へのお便り、運営推進会議で事業所としての考えを伝え、助言等を受け取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	自治会や町内会との交流、地域にイベント参加を求めるなど関係を深めている。隣近所、ホームの前を通るかたに挨拶を交わしたり、入居者様を連れて、買い物に行くことにより、店の方に顔と名前を覚えられる方もおり、ちょっとした会話ができるようになりました。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の総会、懇親会、運動会等の行事に可能な限り参加するようにしている。		スタッフの人員や入居者様の体調等で、参加できなかった行事もあったので、参加できるように努めて行きたいと思えます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	市内の中学校、高校に、高齢者介護について、講演させて頂きました。		運営推進会議を通じ町内の方と話し合っ行ってきたいとおもいます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者はスタッフに外部評価の説明をおこない自己評価を出来るかぎり運営に反映させようとしています。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	お便りの発行や地域イベントへの参加、運営推進会議にて報告し話し合い助言をいただき実行しています。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	広報、空き情報を市に報告したり、担当者と連絡をとり、わからないことなど相談している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は研修参加や自己学習を行っているがスタッフは学ぶ機会が少ない。必要な人や希望している家族は現在はいない。		研修や勉強会を計画し権利事業について学ぶ機会を作ろうと思います。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ同士虐待がないか、体についた傷はないか注意を払い防止に努めている。虐待防止関連法について学ぶ機会はない。		研修等で高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持てるようにしていきます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、また、利用者、ご家族が忘れていたとき、そのような不安、疑問があったとき、すみやかに説明を行い、ご理解、納得を図っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>献立作りや畑の野菜の種類など利用者の意見を聞き出来る限り反映させています。不満や苦情も時間をかけて傾聴し解決にむけ話し合い、家族等にも報告しています。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に一回個々の様子を記したお便りで一ヶ月の様子を報告しています。その他、転倒や具合が悪く受診した場合、いつもと様子が違う場合などはその都度電話報告しています。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>憤慨されるようなことはなかったが、希望や相談事を苦情の裏返しと前向きに受止め、反映している。ホーム内に苦情受付と苦情受付箱を設置、市町村、国保連にも、窓口があることも説明している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回ユニット会議、2ヶ月に1回全体会議、個人面談を行ない、意見交換がなされている。</p>	<p>リーダー会議を設け、意見や提案を聞く機会を増やして行こうと思います。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務表作成時にイベントや受診など事前に分かることがあればスタッフに声をかけ大勢出勤できるように調整しています。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動は出来る限り行わずやむを得ず行う場合は出来る限り1名以上は行わないようにしています。離職に関しては個人面談などでスタッフの悩みなど聞き取りを行っている。</p>	
18-2	<p>マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。</p>	<p>マニュアルは見直しを行っている。、前回の全体会議において、緊急時、行方不明の対応について整備中。</p>	<p>他のマニュアルも見直しの必要あり。会議等において検討し、周知するように致します。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は管理者から指示したものとスタッフから参加希望があった場合行っている。研修にあわせ勤務調整をしています。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設へのスタッフを研修に出し他のGHの良いところ活かせる所学んできてもらいました。定期的には行っていません。	定期的に行えるように交流を図って行きたいと思います。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	個人面談、適度に、食事会を開き、社員との交流、ストレス解消に気を配っている。	まだ、全ての社員と食事会をしていないので、早急に行う必要あり。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	社員一人一人に自己評価を行うよう実施している。自分の良いところ悪いところに気づいてもらい、その後、管理者とのヒアリングを行なうことにより、向上心や意欲をもって働けるよう努めている。	ヒアリングが終わってない社員もあり、早急に行う。定期的に自己評価を行う。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相手の話をさえぎらず最後まで傾聴し急がせず全てを相談できる雰囲気作りに努め不安や求めていることについてはGHではどういう対応が出来るか丁寧に説明しています。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相手の話をさえぎらず最後まで傾聴し急がせず全てを相談できる雰囲気作りに努め不安や求めていることについてはGHではどういう対応が出来るか丁寧に説明しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や紹介してくれた支援事業所と相談時にGHに何を求めているか情報交換を行っています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居する予定のユニットの雰囲気やどういった人がいるかを説明し、出来る限り本人、家族に見学に来てもらい実際に雰囲気を目で見えて感じてもらうようにしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にもかかわらず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食器拭きや調理、洗濯物たたみなど出来る事をしてもらい、また一緒にしている。野菜の作り方、料理の味付けなどを教えてもらっています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にもかかわらず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際、入居者の昔の様子を聞いたり帰宅時の様子を教えてもらう、GHでの生活状況を伝え、問題点の相談などを行っています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	GHでの様子を家族通信で伝え気になった事は電話連絡や面会時に必ず報告するようにしています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との兼ね合いもありますが家に帰りたい入居者(独居)には時間を調整し付き添い日帰りで家に戻ったりしています。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事位置の配慮や談話時は皆が集まっているところに誘導しています。もやしのヒゲ取りなど皆で一つのことを行うことにより会話が生まれ関わり合いが出きるようにしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院や施設が変わっても時間の都合がつけば様子を見に行ったりしています。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自ら意思を明確に出せる方は希望、意向を良く聴きできる限り希望に添うように努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りや紹介事業者からの聞き取りを行っています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	スタッフ全員で観察、把握に努め変化等あれば報告し話し合い対応しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向、思いを良く聞き取りGHではどういう対応ができるか計画作成と担当者等で話し合いプランに取り入れています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	対応できない変化が生じた場合は本人、家族、関係者と話し合っていますが、状態が短期間で変わる可能性が高いのですぐに新しい計画を立ててはいません。		状態が落ち着き次第、計画を変更していこうと思います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はもちろん、夜間の巡視も入居者様それぞれに合わせて異なった時間に実施しており状況を細かく記載し活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	遠方の身元の方や、忙しく面会にこれない方には、通院介助をするなど、柔軟な支援をしている。当GHで出きる範囲であれば出きる限り要望には応じています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアは積極的に受け入れています。消防署を招いて避難訓練、地域の高校、中学校などとも交流を行っております。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在事例はありません。		本人の意向があった場合は家族と話し合い他の事業所も含めたサービスの活用を検討します。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在事例はありません。		本人の意向があった場合は家族と話し合い対応したいとおもいます。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近所の、協力医療機関、かかりつけ医に通院、往診の他、電話での相談、助言をききながら、適切な医療を受けられるように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	心療内科の医院と協力医療機関の協定を結び受診や相談を行っています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関、かかりつけ医の看護師は、入居者様の顔、名前、状態を把握しており、こちらから相談をもちかけたり、助言していただくことも多々あります。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は、お見舞いはもちろんのこと、医師、看護師と今後のケアの仕方に話し合い、早期退院に向けた努力をしたいと思います。特に指定の病院がないときは、協力医療機関との連携をとり、速やかに対応しています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期ケアのホームの方針を利用前に説明している。重度化しつつある場合は、その都度、かかりつけ医との連携をとるとともに、ご家族と話し合い、可能な限りサービス提供している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族にはGHでできる範囲を説明し同意を得ています。体調の管理など医師、スタッフと良く相談し対応方法を検討し共有しています。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	転居の際は、情報提供、転居先との話し合いを繰り返し、ダメージ防止に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>声かけには注意し不愉快にならないように声かけをしています。またおむつ交換や着替えなどできる限り同姓介護を行っています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>本人が自己決定できるよう答えを急がせず本人のペースに合わせています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>できるかぎり希望に添うようにしています。すぐに対応できない場合は理由を説明して納得していただいています。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>希望があれば希望の店に連れて行ったり家族に連れて行ってもらっています。GHには希望があれば美容師が訪問してくれています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の準備や後片付けは本人の調子も見ながらできる限り一緒に行っています。好き嫌いは聞き取りや食べ残しで把握し好みに合うように作っています。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>本人の希望により近くに買い物に行ったりコーヒーやゼリー、果物を楽しめるように努めています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	スタッフ間で最終排泄の時間を確認し排泄パターンを確認し定期的なトイレ誘導を行っています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の方には説明をし納得はしてもらったがスタッフの都合で入浴日を決めてしまっている。希望したときに入浴は出来ないがシャワーのみなら入ることはできます。		スタッフ配置や時間帯を考えできるだけ希望の時間に入浴できるようにしていきたいです。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	食事や入浴時、声かけはするが無理強いはず本人の希望を尊重し休息されているときは休んでいただいています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	できるかぎり個々に役割を持っていただき(掃除や調理)張り合いのある日々が送れるようにしています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は事務所の金庫に一括して保管、管理し買い物や出かけたときに希望者に渡し個々に買い物をしていただいています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望により外に出て畑に行ったり草取りをしたり花を眺めたりされています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	水族館やぶどう狩りなどのイベントを計画実行しています。家族付き添いの外出は随時できるようにしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望(訴えない場合声かけもしています)により事務所の電話を自由に使っていただいています。家族が電話を拒否している場合は家族と相談し対応をしています。手紙も希望があれば自由に出してもらっています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽にたちよれるよう、言葉かけをしたり、話したい場所で、ゆっくり話がでるように促している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正確には理解は出来ていないと思うが、身体拘束は、しては行けない事を開設時の研修や会議で全スタッフの理解に努めてきたため拘束は行っていません。		勉強会や研修を行い正しい理解に努めます。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	できるかぎり鍵をかけないようにしている。スタッフが一人の時や不穏時などはやむを得ず鍵をかけることもある。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホールにいる方には常に目を配り居室に、こもってしまう方にもお茶などを持って定期的に様子を見に行っています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	状態に応じて鉋や縫い針を所持してもらっています。縫い針や鉋の数は把握しています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告、事故報告書を両ユニットで共有、緊急時マニュアルの改訂を行ない会議で周知している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命救急対応の講習を一部スタッフは受けており急変マニュアルは整備しています。		応急手当や初期対応の訓練機会を検討します。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いのもと避難訓練は実施しているが、地域の人の協力が得られるような働きかけはしていません。		運営推進会議を通じ町内の方とどのように協力が得られるか話し合っていきたいとおもいます。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にた対応策を話し合っている	転倒や病状に応じてのリスクを説明しその場合のGHとしての対応を理解していただいております。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックや食事量、本人の様子を観察し変化あった場合は報告、連絡し受診等の対応をしています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルには処方された薬の説明書が綴じてあり、受診時には申し送りや連絡ノートで新しい薬が処方されたことをスタッフに周知徹底している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分をしっかり取っていただくこと、家族と相談し下剤の服用や掃除などで体を動かしていただいております。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後には全員うがいがないし歯磨きの声かけをし出来ない方には介助しています。入れ歯は夜間ポリドントにつけ清潔を保持しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分には特に気をつけ、食事時や10時、15時のお茶の時間にしっかりと水分を取っていただくようにしています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出後は必ず手洗いをし、冬はうがいをしています。食器等の消毒、スタッフもせきが出るなどの場合はマスクを使用しています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器等使用前に消毒を行い、手洗いの徹底と食材の書未期限のチェックをしっかりと行い、管理しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口には花や、車椅子でも出入りできるようにスロープを設置しています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある花を飾ったり、折り紙などで装飾をして生活感や季節感を感じられるように工夫しています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆と一緒にソファの他に少し離れた場所にソファを設置したり、畳コーナーもあり思い思いに過ごせるようにしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限り本人の使い慣れた物を持ってきていただき、自宅にいるような雰囲気作りができるように、入居時に家族に説明しています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室には換気扇が付いており天気の良い日には窓を開け換気をしています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	キッチンからは全体が見渡せるようになっており手すりも設置されており安心して生活できるようにしています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱しないように物事は早めに声かけをしゆっくり理解できるように努めています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花を植えたりベランダで日向ぼっこをしてお茶を飲んだりして活用しています。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)